

第19回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

令和7年9月25日（木）

がん患者のニーズや社会的な課題等を踏まえた医療体制を整備するため、がん診療連携拠点病院の診療実態の評価が求められているが、その評価指標や評価方法は確立していない。

（令和7年度厚労科研公募要項（一次）より）

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業
がん診療連携拠点病院等における
がん診療の実態把握に係る適切な評価指標の確立に資する研究

R4～6年度



厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業
がん診療連携拠点病院等の整備のための評価指標を用いたがん診療の評価に資する研究

R7～9年度

研究代表者 藤 也寸志 （国立病院機構九州がんセンター 名誉院長）

- がん診療連携拠点病院等の制度は有効に機能しているのか？
- がん診療連携拠点病院等に特化した評価指標・評価方法は何か？
- 現場は何を評価して欲しいか？、現場の頑張りを評価できる指標は何か？
- 評価されることで、現場が頑張ろうと思える指標は何か？

拠点病院等の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の開発と選定

第1期（2022-2024）

ロジックモデルの策定を目指す

（基本計画の評価方法としてロジックモデルが採用されたことを受けて）

評価指標の洗い出しと整理

研究班内での議論

- ・既存データベースからの「拠点病院等の医療の質の評価」に資する指標の洗い出しと整理（QI研究・患者体験調査・遺族調査・NDB・DPC 等）
- ・がん対策推進協議会等における議論の整理

+

- ◆ロジックモデルの意義の共有 ⇒ 策定の進め方の議論
- ◆併行して、整備指針の各要件が意味するもの（目指すもの）の言語化

現地でのインタビュー調査の実施

現場への聞き取り（現場が望む指標・必要と思う指標は？）

都道府県がん拠点、地域がん拠点、がん診療連携協議会、行政

- ★診療部門・がん相談支援センター・緩和ケア・地域連携等の部門実務者への調査
- ★都道府県拠点へは、連携協議会あり方についても調査

拠点病院等の活動に関わる既存研究班へのヒアリング

・高齢者・小児がん・AYA世代・妊孕性・緩和ケア・希少がん・ピアサポート

ロジックモデル原案の策定

医療者調査の計画・立案

（対象：全拠点病院等のがん関連の全職種の医療従事者）

全拠点病院等に対するアンケート調査

「洗い出し・整理された評価指標案について」「現場が望む評価指標とは？」

パイロット調査と回答者へのインタビュー

問題点の把握と医療者調査の改訂

ロジックモデル改訂版の策定
（適切かつ客観的な評価指標の策定）

拠点病院等の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の開発と選定

第1期（2022-2024）

ロジックモデルの策定を目指す

（基本計画の評価方法としてロジックモデルが採用されたことを受けて）

評価指標の洗い出しと整理

研究班内での議論

- ・既存データベースからの「拠点病院等の医療の質の評価」に資する指標の洗い出しと整理（QI研究・患者体験調査・遺族調査・NDB・DPC 等）
- ・がん対策推進協議会等における議論の整理

+

- ◆ロジックモデルの意義の共有 ⇒ 策定の進め方の議論
- ◆併行して、整備指針の各要件が意味するもの（目指すもの）の言語化

現地でのインタビュー調査の実施

現場への聞き取り（現場が望む指標・必要と思う指標は？）

都道府県がん拠点、地域がん拠点、がん診療連携協議会、行政

- ★診療部門・がん相談支援センター・緩和ケア・地域連携等の部門実務者への調査
- ★都道府県拠点へは、連携協議会あり方についても調査

拠点病院等の活動に関わる既存研究班へのヒアリング

・高齢者・小児がん・AYA世代・妊孕性・緩和ケア・希少がん・ピアサポート

ロジックモデル原案の策定

全拠点病院等に対するアンケート調査

「洗い出し・整理された評価指標案について」「現場が望む評価指標とは？」

医療者調査の計画・立案

（対象：全拠点病院等のがん関連の全職種の医療従事者）

パイロット調査と回答者へのインタビュー

問題点の把握と医療者調査の改訂

ロジックモデル改訂版の策定 （適切かつ客観的な評価指標の策定）

拠点病院等の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の開発と選定

第1期（2022-2024）

ロジックモデルの策定を目指す

（基本計画の評価方法としてロジックモデルが採用されたことを受けて）

評価指標の洗い出しと整理

研究班内での議論

- ・既存データベースからの「拠点病院等の医療の質の評価」に資する指標の洗い出しと整理（QI研究・患者体験調査・遺族調査・NDB・DPC 等）
- ・がん対策推進協議会等における議論の整理

+

- ◆ロジックモデルの意義の共有 ⇒ 策定の進め方の議論
- ◆併行して、整備指針の各要件が意味するもの（目指すもの）の言語化

現地でのインタビュー調査の実施

現場への聞き取り（現場が望む指標・必要と思う指標は？）

都道府県がん拠点、地域がん拠点、がん診療連携協議会、行政

- ★診療部門・がん相談支援センター・緩和ケア・地域連携等の部門実務者への調査
- ★都道府県拠点へは、連携協議会あり方についても調査

拠点病院等の活動に関わる既存研究班へのヒアリング

・高齢者・小児がん・AYA世代・妊孕性・緩和ケア・希少がん・ピアサポート

ロジックモデル原案の策定

全拠点病院等に対するアンケート調査

「洗い出し・整理された評価指標案について」「現場が望む評価指標とは？」

医療者調査の計画・立案

（対象：全拠点病院等のがん関連の全職種の医療従事者）

パイロット調査と回答者へのインタビュー

問題点の把握と医療者調査の改訂

ロジックモデル改訂版の策定 （適切かつ客観的な評価指標の策定）

インタビュー調査の対象

都道府県拠点	地域拠点	施設種類
信州大 島根大 高知大 琉球大	富山大 名古屋大 神戸大	(大学)
北海道がん 愛知がん 兵庫がん 四国がん		(がんセンター)
富山県立中央 都立駒込	岩手県立中央 諏訪赤十字 島根県立中央 高知医療セ	(総合病院)

対象
研究班（希少がん）
研究班（AYA）
研究班（小児）
研究班（ピアサポート）
研究班（生殖医療）
研究班（高齢者）
研究班（緩和医療）

国立がん研究センター：川井章先生

国立国際医療研究センター：清水千佳子先生

国立成育医療研究センター：松本公一先生

国立がん研究センター：小川朝生先生

聖マリアンナ医科大学：鈴木直先生

元・福岡大学：田村和夫先生

筑波大学：木澤義之先生

- 都道府県がん診療連携協議会：沖縄県・高知県・東京都
- 行政：長野県・高知県・島根県

都道府県がん診療連携協議会へのインタビュー調査

都道府県がん診療連携拠点病院へのインタビュー調査

都道府県がん診療連携協議会のあり方に関して：

- (1) **新・整備指針にある「都道府県連携協議会の主な役割」「地域がん拠点の指定要件の都道府県協議会における役割」などの部分について：**（2以外で）
- ・感想は？
 - ・もっと書き込んだ方がよいと思われる事項は？
 - ・意味が不明と感じられる事項は？
 - ・違和感を感じる、必要性を感じない事項は？
- (2) **都道府県協議会としての活動内容に関して：**
- ・貴県で既に実施されてる有効と考える取り組みは？
⇒ その実現に苦労した点、推進のポイントは？
 - ・他県に拡大したい活動は？
 - ・他県には拡大できないと思われる活動は？
 - ・先進県であるからこそ評価して欲しい項目は？
 - ・都道府県協議会の何を評価したら、自県の立ち位置がわかるか？
 - ・貴県において、これから取り組んでいこうと思う事項は？
 - ・貴県で「必要性が大きい」「解決への課題が大きい」と感じる事項は？
 - ・国あるいは外部（大学など）の支援があると良い事項は？
（資金以外）
- ★それを評価しベンチマーキングできる適切な指標は何か？
- (3) **都道府県協議会の活動に関する現在の問題点について：**
（4以外で）
- ・開催の負担（労力、費用）？
 - ・効果の評価の方法と結果を踏まえた改善は？
 - ・何が足りないか？
 - ・どうしたら現状を改善できるか？
- ★問題点を明確にできる指標は何か？
- (4) **都道府県協議会の持続可能性について：**
- ・最大の阻害因子は何か？
 - ・将来にわたって何ができるか？
 - ・持続可能性を高めるために何をしなければいけないか？
 - ・担当者の交代の際に、必要な要素は何か？
- ★これらを評価する適切な指標は何か？

拠点病院等の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の開発と選定

第1期（2022-2024）

ロジックモデルの策定を目指す

（基本計画の評価方法としてロジックモデルが採用されたことを受けて）

評価指標の洗い出しと整理

研究班内での議論

- ・既存データベースからの「拠点病院等の医療の質の評価」に資する指標の洗い出しと整理（QI研究・患者体験調査・遺族調査・NDB・DPC 等）
- ・がん対策推進協議会等における議論の整理

+

- ◆ロジックモデルの意義の共有 ⇒ 策定の進め方の議論
- ◆併行して、整備指針の各要件が意味するもの（目指すもの）の言語化

現地でのインタビュー調査の実施

現場への聞き取り（現場が望む指標・必要と思う指標は？）

都道府県がん拠点、地域がん拠点、がん診療連携協議会、行政

- ★診療部門・がん相談支援センター・緩和ケア・地域連携等の部門実務者への調査
- ★都道府県拠点へは、連携協議会あり方についても調査

拠点病院等の活動に関わる既存研究班へのヒアリング

・高齢者・小児がん・AYA世代・妊孕性・緩和ケア・希少がん・ピアサポート

ロジックモデル原案の策定

全拠点病院等に対するアンケート調査

「洗い出し・整理された評価指標案について」「現場が望む評価指標とは？」

医療者調査の計画・立案

（対象：全拠点病院等のがん関連の全職種の医療従事者）

パイロット調査と回答者へのインタビュー

問題点の把握と医療者調査の改訂

ロジックモデル改訂版の策定 （適切かつ客観的な評価指標の策定）

がん診療連携拠点病院等の診療実態の評価のためのロジックモデル原案の策定

＜第1期（2022-2024）＞

- 1) 都道府県協議会の役割
- 2) 集学的治療および標準治療：診療体制、支持療法、多職種連携/チーム医療、セカンドオピニオン
- 3) 手術療法：診療体制、人員関連
- 4) 放射線療法：診療体制、人員関連
- 5) 薬物療法：診療体制、人員関連（免疫チェックポイント阻害薬を含む）
- 6) 緩和ケア：診療体制、院内連携、地域連携、自殺予防対策
- 7) 希少がん：診療体制、地域連携
- 8) 難治がん：診療体制、地域連携
- 9) ライフステージに応じたがん対策：小児がん長期フォローアップ、AYA世代がん患者の支援、生殖医療、就学・就労・アピアランスケア、高齢者・障がい者がん患者の診療
- 10) 相談支援：相談支援体制、院内連携、地域連携、周知活動、人員関連
- 11) 情報提供：体制整備、地域連携、がん教育
- 12) その他：医療の質、BCP、安全管理、ネット環境整備、院内がん登録、臨床研究・調査研究

がん診療連携拠点病院等の評価のためのロジックモデルのイメージ

(例) ② 集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供

最終アウトカムは、
基本計画ロジックモデルを踏襲

- 集学的治療等と
標準治療の提供
- チーム医療
 - ・
 - ・
 - ・
 - ・
 - ・
- 支持療法
- がんリハ
- 歯科
- 在宅
- セカンドオピニオン

がん施策	内容	アウトプット指標	中間アウトカム	内容	指標	分野別アウトカム	内容	指標
集学的治療等と標準治療の提供	手術、放射線治療及び薬物療法、リハビリ、緩和ケアを提供できる集学的治療等の提供ができる体制の構築	我が国に多いがんを中心とした標準治療の提供		Quality Indicatorの利用	担当する医療圏における標準治療実施割合を算定する(高橋)	がん	全患者に標準的治療が提供される	
	院内での他科受診の体制確保		各学会の診療ガイドラインを標準的治療等とする					
	当該施設について集学的治療を実施しない場合、適切な医療機関と実地連携ができる体制の構築	高橋は、体制整備(紹介)を計画的に進める						
	標準治療として複数の診療科と連携する選択がある場合、その診療科に受診ができる体制を確保すること							
チーム医療	保険適用外の免疫療法等について、治験、先進医療、臨床研究法(平成29年法律第16号)で定める特定臨床研究または再生医療等の安全性の確保等に関する法律(平成25年法律第85号)に基づき提供される再生医療等の枠組み以外の形では、実施・推奨しないこと。	保険適用外の免疫療法等について、法律に基づき提供される枠組み以外の形では、実施・推奨しないこと。						
	医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等には看護師や心理士が同席すること	医師が同席すること					医療に反映する	患者が安心する
	がん患者の病態に応じた適切ながん医療を提供できるよう、以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的に開催すること。(i, ii, iii, iv)	カンファレンス						
	院内の緩和ケアチーム、口腔ケアチーム、栄養サポートチーム、感染防止対策チーム等の専門チームへ、医師だけではなく、看護師や薬剤師等他の診療従事者からも介入依頼ができる体制を整備すること	化学療法や緩和医療において多職種によるチームが組織されている(高橋)		医療機関内で医師以外も含めた多職種で連携できている	全患者に対して多職種からのサポートを受けられる			
	当該がん医療圏において顔の見える関係性を構築し、がん医療の質の向上につながるよう、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に行うこと。	担当する医療圏において、拠点病院を中心とした病院の連携体制が整っている(高橋)			院内での各チームの必要性や働きについて、治療に関わる全診療従事者が理解している			

整備指針に基づいた
"がん施策"の列挙

原則として、
中間アウトカム ⇒ 医療者が主語
分野別アウトカム ⇒ 患者が主語

「医療者調査の結果が向上すれば、患者体験調査などのスコアがアップする」というロジックを考える。

整備指針の各項目が求めるものの言語化
(がん施策の内容・中間アウトカム・分野別アウトカム)

拠点病院等の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の開発と選定

第1期（2022-2024）

ロジックモデルの策定を目指す

（基本計画の評価方法としてロジックモデルが採用されたことを受けて）

評価指標の洗い出しと整理

研究班内での議論

- ・既存データベースからの「拠点病院等の医療の質の評価」に資する指標の洗い出しと整理（QI研究・患者体験調査・遺族調査・NDB・DPC 等）
- ・がん対策推進協議会等における議論の整理

+

- ◆ロジックモデルの意義の共有 ⇒ 策定の進め方の議論
- ◆併行して、整備指針の各要件が意味するもの（目指すもの）の言語化

現地でのインタビュー調査の実施

現場への聞き取り（現場が望む指標・必要と思う指標は？）

都道府県がん拠点、地域がん拠点、がん診療連携協議会、行政

- ★診療部門・がん相談支援センター・緩和ケア・地域連携等の部門実務者への調査
- ★都道府県拠点へは、連携協議会あり方についても調査

拠点病院等の活動に関わる既存研究班へのヒアリング

・高齢者・小児がん・AYA世代・妊孕性・緩和ケア・希少がん・ピアサポート

ロジックモデル原案の策定

全拠点病院等に対するアンケート調査

「洗い出し・整理された評価指標案について」「現場が望む評価指標とは？」

医療者調査の計画・立案

（対象：全拠点病院等のがん関連の全職種の医療従事者）

パイロット調査と回答者へのインタビュー

問題点の把握と医療者調査の改訂

ロジックモデル改訂版の策定
（適切かつ客観的な評価指標の策定）

医療者調査の計画とパイロット調査

5施設（がんセンター 2・大学病院 1・総合病院 2）にご協力いただきました。
有難うございました。

医療者調査のお願い



この度、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん診療連携拠点病院等におけるがん診療の実態把握に係る適切な評価指標の確立に資する研究（22FA1005）」として、がん診療に従事される医療者の皆様を対象としたアンケート調査を実施しております。

本研究班は、がん診療連携拠点病院等に対する適切な評価指標を設定することを目的として活動しております。その評価指標として、医療者の皆様の声を施策に活かすことができないかと考えてまいりました。本調査は、日頃がん診療に関わる医療者の皆様のご意見を伺い、課題を明らかにすることによって、がん対策に反映させることを目的としております。

本調査は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会より承認を受けております。

本調査は、匿名で行われ、個別の回答内容を所属する医療機関に直接お伝えすることはありません。調査終了後に、結果をまとめて所属機関にお伝えします。また、回答は任意であり、回答がない場合も不利益を生じることは一切ありません。

想定回答時間：20分（途中で一時保存が可能です。ページを移動せずに60分経過すると、回答がリセットされるのでご注意ください。）

調査責任者：東京大学医学系研究科公衆衛生学分野 東尚弘

問合せ窓口：<https://reg.qubo.jp/jlg-survey/form/iryousya>

みなさま、ぜひご協力をお願いします。



研究代表者
九州がんセンター名誉院長
藤田 伸志

問20
あなたの施設では、妊孕性に影響を及ぼすがん治療を行う予定のがん患者のうち、どの程度が、治療開始前に生殖医療について説明を受けていますか ※必須

☐ ほぼ全員受けている
☐ だいたい受けている
☐ 半数程度受けている
☐ あまり受けていない
☐ ほぼ全員受けていない
☐ わからない
☒ 生殖医療の説明に関与しない

問21
あなたの施設では、施設としてAYA世代(15歳～30歳代の世代)のがん患者を把握する仕組みはありますか ※必須

☐ ある
☐ ない
☒ わからない

問22
あなたの施設にアピアランスケア^[注]に関する相談先はありますか

[注] 医学的・療育的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を緩和し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのこと ※必須

☐ 相談先があり、患者に紹介したことがある
☒ 相談先があるが、患者に紹介したことはない
☐ 相談先があるかどうかわからない
☐ 相談先がない

さらに、回答者のうち19人に質問の解釈や問題点について、個別のインタビュー調査を行った。

医療者調査（パイロット調査）の結果のまとめと問題点 (2024年秋：5施設)

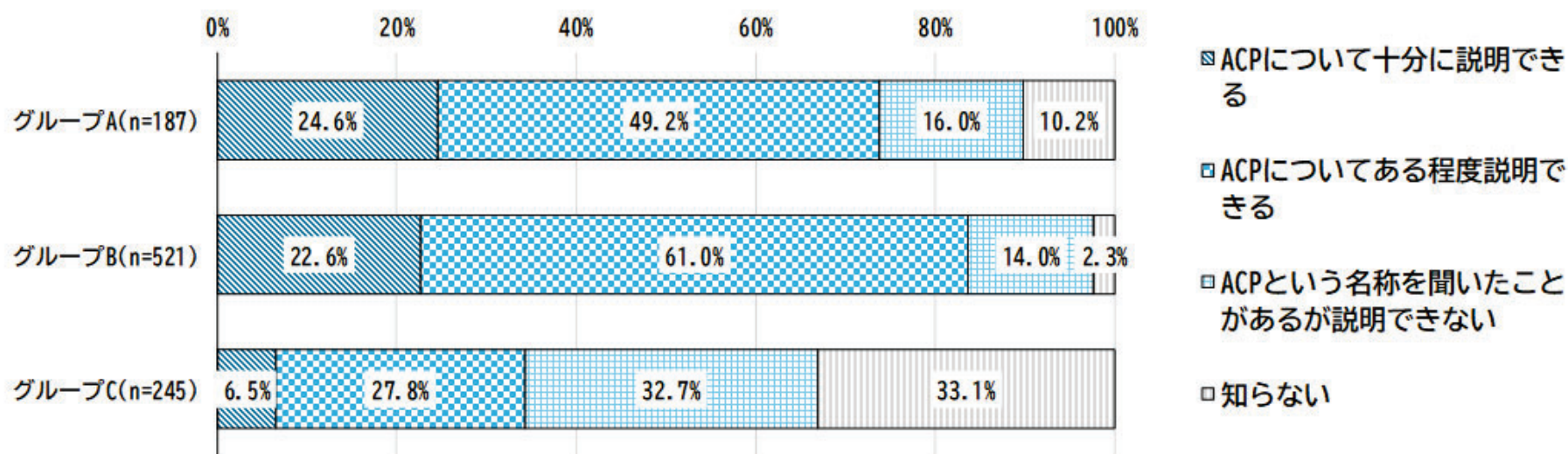
グループA (n=187) :医師、歯科医師

グループB (n=521) :看護師

グループC (n=245) :薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリ専門職などの多職種

「がん診療に携わっているか？」に「はい」と回答したスタッフのみが回答

問17 あなたは、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を知っていますか？



医療者調査（パイロット調査）の結果のまとめと問題点 （2024年秋：5施設）

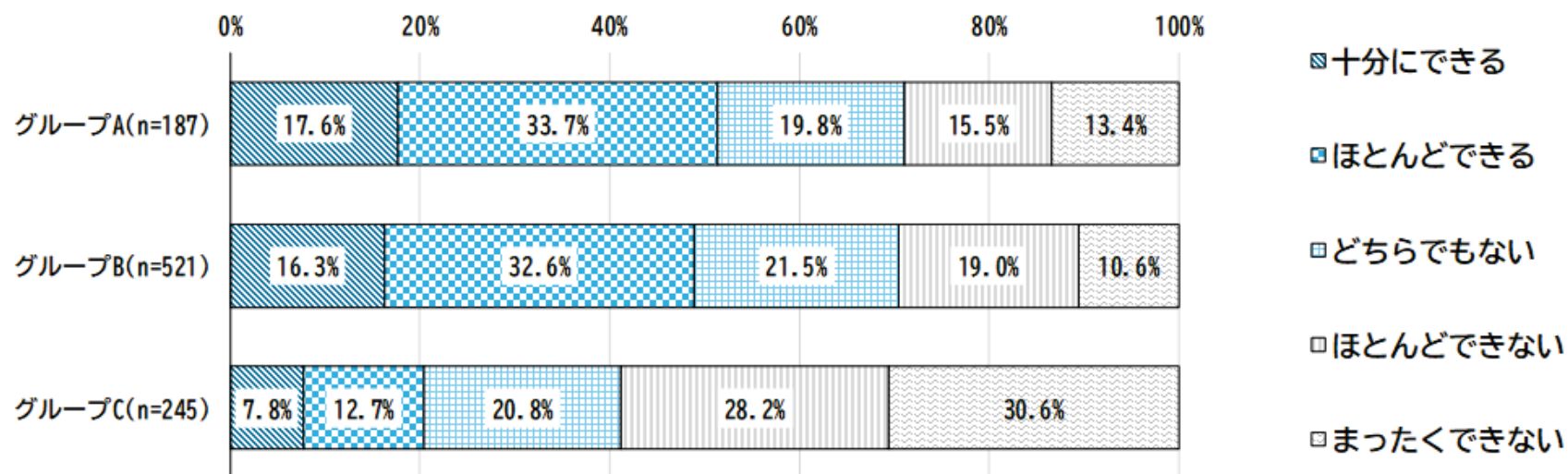
グループA（n=187）：医師、歯科医師

グループB（n=521）：看護師

グループC（n=245）：薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリ専門職などの多職種

「がん診療に携わっているか？」に「はい」と回答したスタッフのみが回答

問27 あなたは、がん相談支援センターの利用方法をがん患者に説明できますか？



拠点病院の評価を目指したロジックモデルにおける評価指標のまとめ（一部のみ提示） （患者体験調査とQI指標に関して）

※参考値に記載の数値は、公開値（患者体験調査は第3回、QIは2021年診断）のみである				
アウトカム	内容	指標	データソース	参考値
①都道府県協議会の役割				
①-2-3 がん患者が地域で受けられる医療に関する情報収集が可能になる	がん患者の実感として病院選びに困らない	症状や検診結果に対し初めて病院・診療所を受診したときから、最初の治療を受けるまでの間の受診した施設の数 (新規提案：地域の病院の情報を知ることができ、病院選びに困らなかったと感じた患者の割合)	①-2-3-1 患者体験調査	問13(初診から治療開始までに受診した施設数の平均):平均1.6施設
①-3-1 各都道府県において、適切な医療機関・医療にがん患者がたどり着く。また、必要に応じて都道府県外への受診が可能になる	がん患者がどこに居住していても医療アクセスに関する不利を過剰に感じなくなる	第3回項目なし (新規提案：医療へのアクセスが原因で受けた治療を諦めたことがある患者の割合)	①-3-1-1 患者体験調査	
①-3-1 各都道府県において、適切な医療機関・医療にがん患者がたどり着く。また、必要に応じて都道府県外への受診が可能になる	がん治療を受ける病院や療養先の選択時に、確かな情報に基づき、適切な医療機関を選択できる	今回のがんの診断・治療全般について総合的に評価した点数 (新規提案：医療を受けた施設が適切であったと感じる患者の割合)	①-3-1-2 患者体験調査	問31(がんの診断・治療全般に関する総合的な評価の平均点(0～10点)):平均8.2点
①-3-1 各都道府県において、適切な医療機関・医療にがん患者がたどり着く。また、必要に応じて都道府県外への受診が可能になる	患者がよりよい治療、療養生活を選択できる	第3回項目なし (新規提案：よい治療・療養生活を選択できたと感じる患者の割合)	①-3-1-3 患者体験調査	
①-3-1 各都道府県において、適切な医療機関・医療にがん患者がたどり着く。また、必要に応じて都道府県外への受診が可能になる	自施設だけではなく、地域全体で質の高いがん医療を永続する	QI研究未実施理由入力への参加率 (症例報告書より)	①-3-1-4 QI研究	2021年診断症例：195/649(施設)≒30.0%
(最終アウトカム)全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上		「現在自分らしい日常生活を送れている」と回答した患者の割合	患者体験調査	問59(現在自分らしい日常生活を送れていると感じる人（本人回答のみ）):79.0%

拠点病院等の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の開発と選定

第1期（2022-2024）

ロジックモデルの策定を目指す

（基本計画の評価方法としてロジックモデルが採用されたことを受けて）

評価指標の洗い出しと整理

研究班内での議論

- ・既存データベースからの「拠点病院等の医療の質の評価」に資する指標の洗い出しと整理（QI研究・患者体験調査・遺族調査・NDB・DPC 等）
- ・がん対策推進協議会等における議論の整理

+

- ◆ロジックモデルの意義の共有 ⇒ 策定の進め方の議論
- ◆併行して、整備指針の各要件が意味するもの（目指すもの）の言語化

現地でのインタビュー調査の実施

現場への聞き取り（現場が望む指標・必要と思う指標は？）

都道府県がん拠点、地域がん拠点、がん診療連携協議会、行政

- ★診療部門・がん相談支援センター・緩和ケア・地域連携等の部門実務者への調査
- ★都道府県拠点へは、連携協議会あり方についても調査

拠点病院等の活動に関わる既存研究班へのヒアリング

・高齢者・小児がん・AYA世代・妊孕性・緩和ケア・希少がん・ピアサポート

ロジックモデル原案の策定

医療者調査の計画・立案

（対象：拠点病院の全職種の医療従事者）

全拠点病院等に対するアンケート調査

「洗い出し・整理された評価指標案について」「現場が望む評価指標とは？」

パイロット調査と回答者へのインタビュー

問題点の把握と医療者調査の改訂

ロジックモデル改訂版の策定
（適切かつ客観的な評価指標の策定）

厚生労働省研究成果データベース
>>>研究成果検索

がん診療連携拠点病院等の整備のための評価指標を用いたがん診療の評価に資する研究

第2期（2025-2027）

令和7年度

令和8年度

令和9年度

全国のがん診療連携拠点病院の医療者を対象とした
『**医療者調査**』の手法の完成と全国調査の施行

都道府県がん診療連携協議会の実態把握、その
評価改善に際しての課題同定とその解決策の提言

がん診療連携拠点病院等の『**現況報告**』の改訂と
効率的な収集の提案

研究の総括

先行研究で策定した
**拠点病院制度
ロジックモデル**
の妥当性の検討



「がん診療提供体制のあり
方に関する検討会」
および
「がん診療連携拠点病院等
の指定要件に関するワーキ
ンググループ」
の議論を踏まえて、
**次期整備指針の改定に
などに向けた情報提供、
さらに提言を行う。**

がん診療連携拠点病院等の整備のための評価指標を用いたがん診療の評価に資する研究 第2期（2025-2027）

令和7年度

令和8年度

令和9年度

全国のがん診療連携拠点病院の医療者を対象とした
『医療者調査』の手法の完成と全国調査の施行

先行研究班で策定した医療者調査のパイロット調査で明らかになった課題をもとに、**尺度開発を含めた医療者調査を改訂する。**

複数拠点病院で
再パイロット調査を施行

全国の拠点病院を対象とした医療者調査の実施計画を策定する。

全国拠点病院等の医療者を対象とした
医療者調査を実施

結果をまとめて、医療者の視点からの全国の拠点病院の実態を報告する。

研究の総括

先行研究で策定した
**拠点病院制度
ロジックモデル**
の妥当性の検討



「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」
および
「がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ」
の議論を踏まえて、
次期整備指針の改定
などに向けた情報提供、
さらに提言を行う。

がん診療連携拠点病院等の整備のための評価指標を用いたがん診療の評価に資する研究 第2期（2025-2027）

令和7年度

令和8年度

令和9年度

都道府県がん診療連携協議会の実態把握、 その評価改善に際しての課題同定とその解決策の提言

複数の都道府県において、がん診療連携協議会の活動、特に指定要件に定めるデータの活用と診療の役割分担についての課題を抽出する。

全国の都道府県がん診療連携協議会の調査を行うことで、その実態を把握する。

結果をフィードバックすることで持続的改善の体制を図る。

全国の実態をもとに、次期整備指針に向けたがん診療連携協議会についての提言を行う。

松岡班アンケート調査との関連

- ✓ 主として、集約化に関する調査結果を共有する。
⇒ 質問の重複を避ける。
- ✓ 松岡班のアンケート調査の結果を考慮して計画する。
- ✓ 場合によっては、現地訪問による詳細な状況把握と共有を図る。

研究の総括

先行研究で策定した
**拠点病院制度
ロジックモデル**
の妥当性の検討



「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」
および
「がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ」
の議論を踏まえて、
**次期整備指針の改定
などに向けた情報提供、
さらに提言を行う。**

がん診療連携拠点病院等の整備のための評価指標を用いたがん診療の評価に資する研究 第2期（2025-2027）

令和7年度

令和8年度

令和9年度

がん診療連携拠点病院等の『**現況報告**』の改訂と、 効率的な収集の提案

現況報告の項目をレビュー、
拠点病院から直接情報
収集すべき事項、医療者・
患者が活用可能であり情報
公開に資する項目、その
正確性についての選別を行う。

現況報告の改訂案や情報
公開に関しての**プロトタイプ**を
策定する。

都道府県においてがん診療
連携協議会と連携し実際の
公開を行う。

次期整備指針における現況
報告のあり方について提言を
行う。

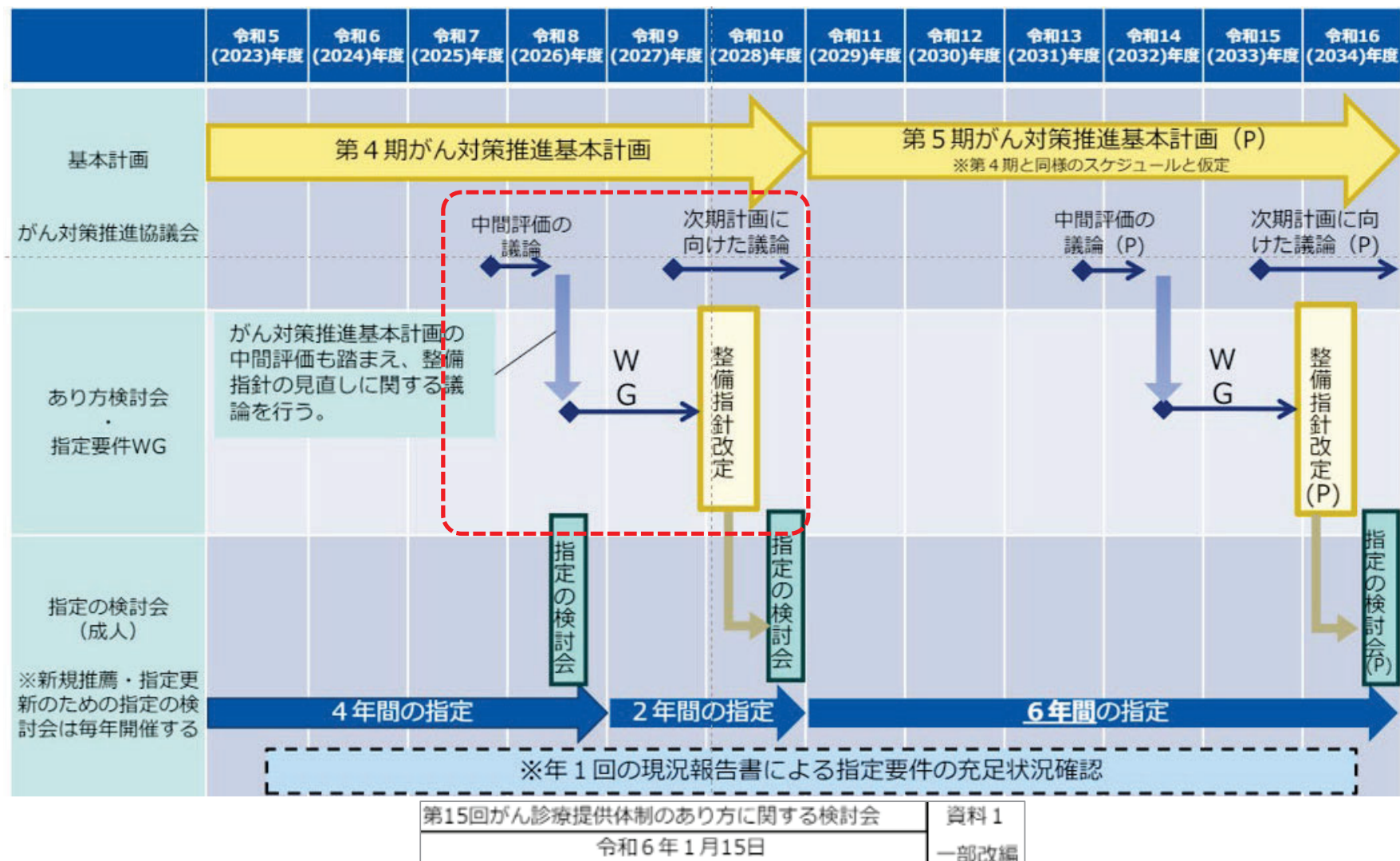
研究の総括

先行研究で策定した
**拠点病院制度
ロジックモデル**
の妥当性の検討



「がん診療提供体制のあり
方に関する検討会」
および
「がん診療連携拠点病院
等の指定要件に関する
ワーキンググループ」
の議論を踏まえて、
**次期整備指針の改定
等に向けた情報提供、
さらに提言**を行う。

がん診療提供体制のあり方に関する検討会や
次期整備指針の改定等に向けた情報提供、さらに提言を行う。



がん診療連携拠点病院等の整備のための 評価指標を用いたがん診療の評価

- がん診療連携拠点病院等の制度は有効に機能しているのか？
- がん診療連携拠点病院等に特化した評価指標・評価方法は何か？
- 現場は何を評価して欲しいか？、現場の頑張りを評価できる指標は何か？
- 評価されることで、現場が頑張ろうと思える指標は何か？

医療者調査の全国実施、全国のがん診療連携協議会へのアンケート調査をはじめとして、全てのがん診療連携拠点病院等のがん診療に携わる全ての医療従事者のご協力が必要です。

何卒よろしくお願い申し上げます。

連絡先：iryousya-survey@m.u-tokyo.ac.jp

研究班HP：<https://www.eval-dcchs.m.u-tokyo.ac.jp/>（10月中旬以後に公開予定）